

# 井伊家のなりたち

激動の時代の中、幾多の苦難に翻弄されながらも、その名を全国に轟かせていった名門・井伊氏。遠江600年、近江400年にわたる「なりたち」の一片を紐解く。



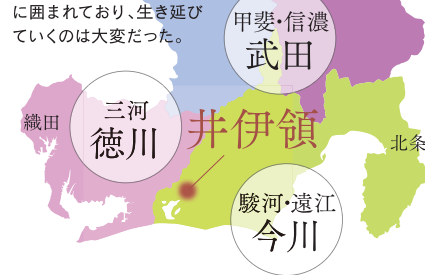
井伊氏が治めた井伊谷の風景

## 井伊氏のはじまりは、 平安中期

寛弘7年(1010)、井伊谷の井戸から誕生したとされる共保を初代としている。共保は、志津城(西区村櫛町)の城主 藤原共資の養子となった後、井伊谷に移り姓を「井伊」とした。井伊谷城を本拠としてからは、この地方の国人領主として栄えた。南北朝時代には後醍醐天皇の皇子 宗良親王を迎え、足利幕府に対抗する南朝勢力とし

### 戦国時代・遠江周辺の勢力図

今川氏のもと井伊領を治めたが、力のある大名に囲まれており、生き延びていくのは大変だった。

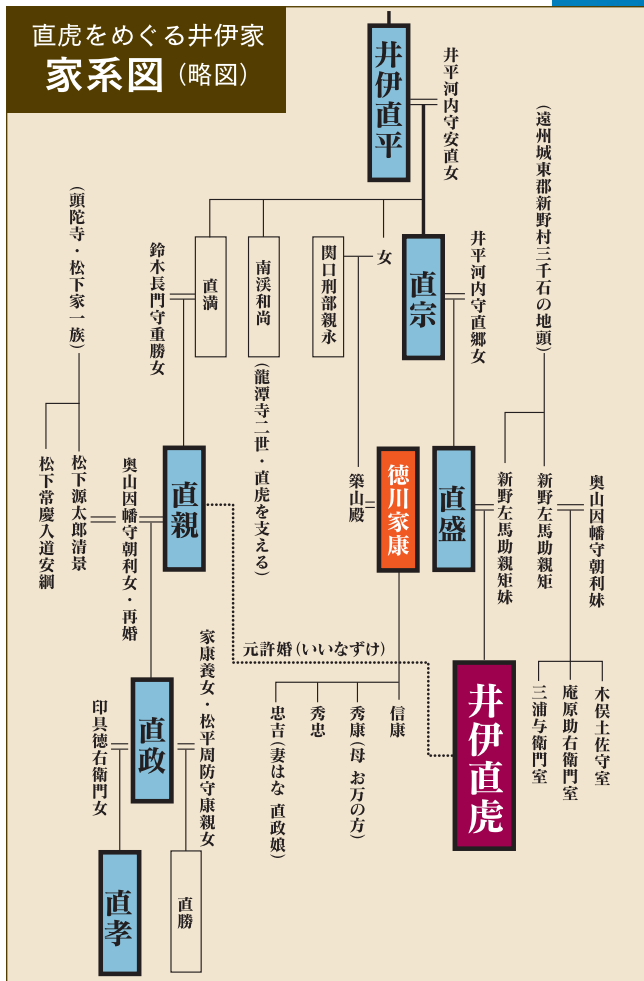


て奮戦する。戦国時代になると、井伊氏は今川氏の支配下に置かれ、井伊氏に受難の波が押し寄せることになる。

## 井伊氏の男子が 次々に死去

残るは直親の忘れ形見である虎松(後の直政)のみとなったこの危機に登場したのが、のちに井伊直虎を名乗る次郎法師である。幼い虎松の後見人となり、さまざまな困難に立ち向かった。直虎の意志を継いだ虎松(万千代)は家康のもとで数々の功績を打ち立て「徳川四天王」の一人と称されるまでになる。その後も井伊氏は代々で江戸幕府を支えていった。開国を決した、幕末期の大老 井伊直弼が輩出されるなど要職を歴任した。

## 直虎をめぐる井伊家 家系図 (略図)



ともやすこう

### 共保公出生の井戸

井伊氏初代の共保が生まれたとの伝説が伝わる井戸は、龍潭寺山門の南、田圃に囲まれたのどかな場所にある。白壁に囲まれた大きな石組みの井戸で、傍らには「井伊氏祖備中守藤原共保出生之井」の碑が建っている。

浜松市北区引佐町井伊谷1989(龍潭寺門前)  
交/JR浜松駅より遠鉄バス 奥山行で約45分  
「神宮寺」下車 龍潭寺より徒歩約5分

